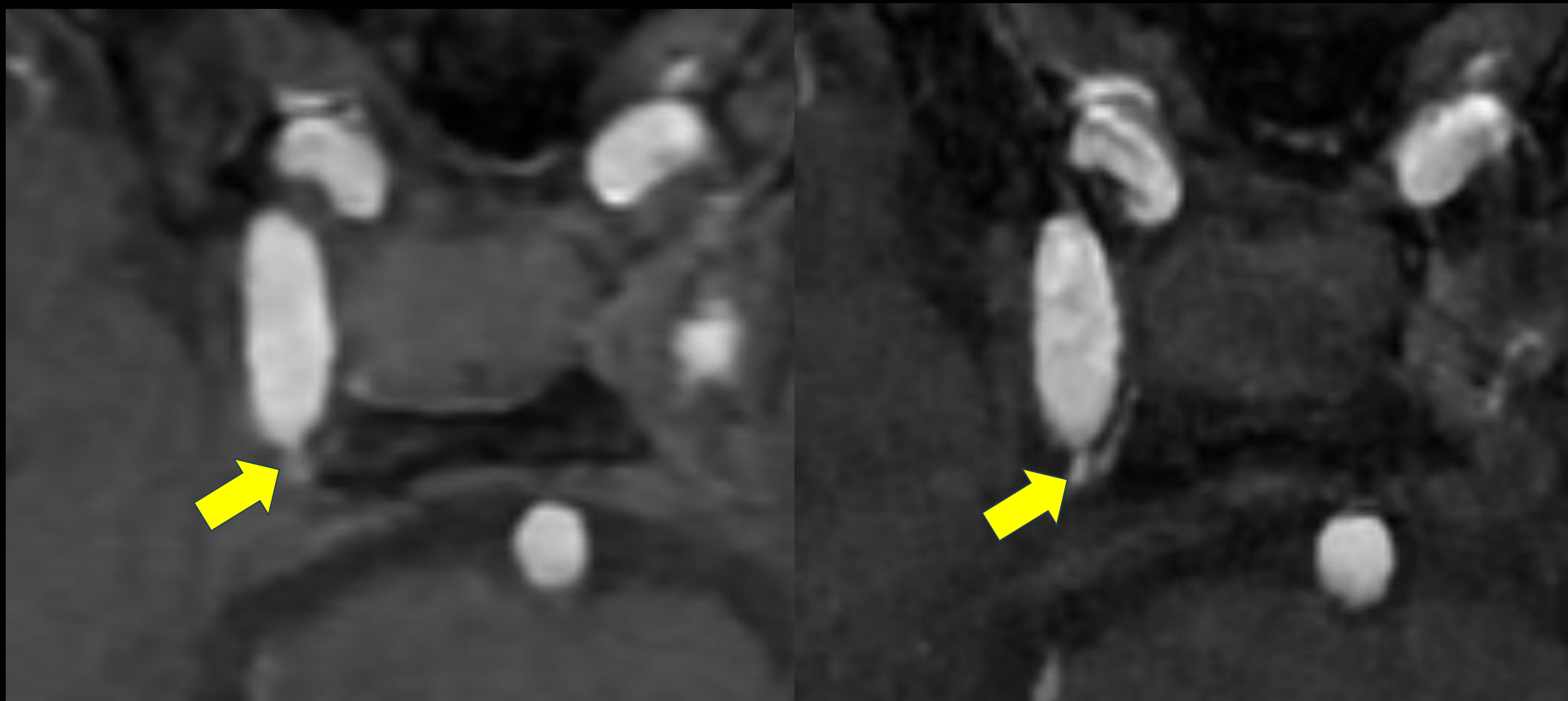


～Deep Learning Reconstruction併用High Resolution MRAの動脈瘤診断～

小さな脳動脈瘤（3mm未満）、ICA・ACAの動脈瘤の検出率が低下し、偽陽性もある。また診断の際漏斗状拡張と動脈瘤の鑑別が問題となる。
MRIではTOF法を用いて撮像を行うが、スライス厚は1mm程度で行われている。
分解能を0.4mm iso-voxelに設定しDeep Learningを併用することで、**疑陽性の低減**と**漏斗状拡張と動脈瘤の鑑別が容易**となることが示唆された。

Routine

HR

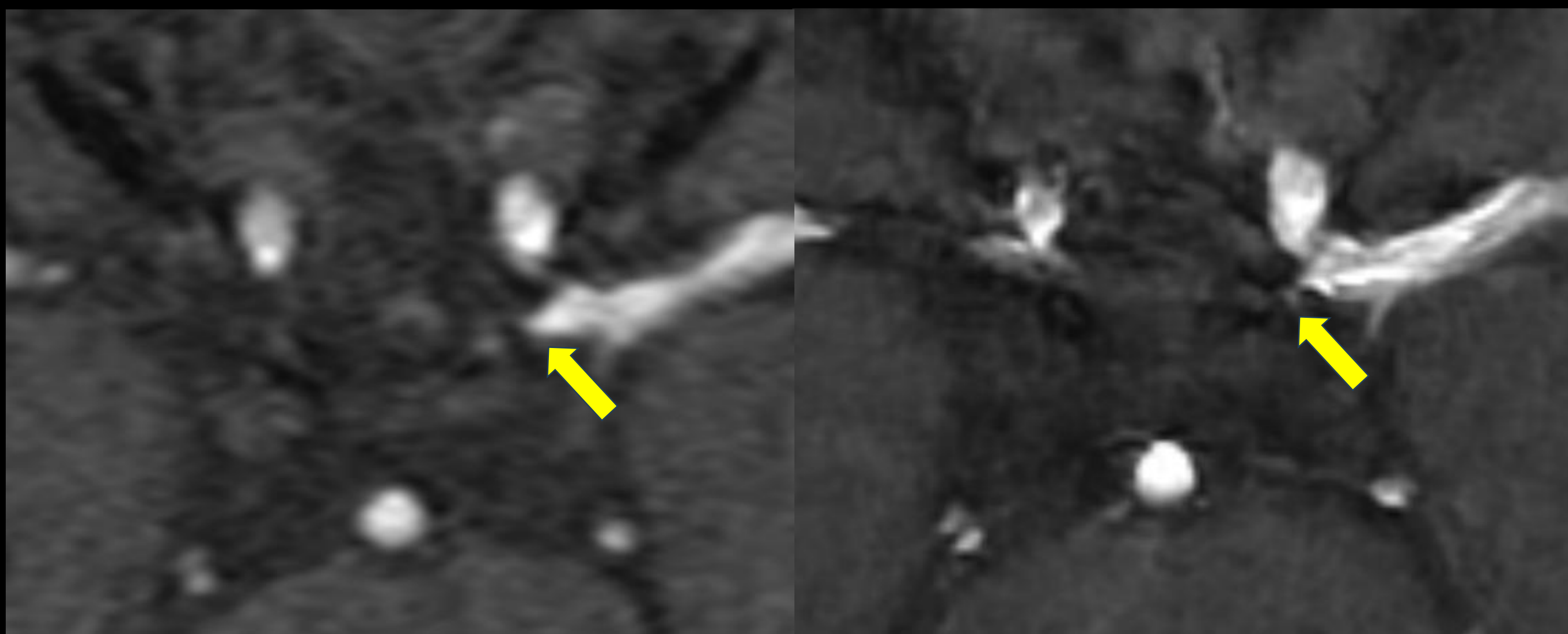


Case 1

Routineでは後方に突出する漏斗状拡張が疑われるが、HRでは**正常血管として描出**されている。

Routine

HR

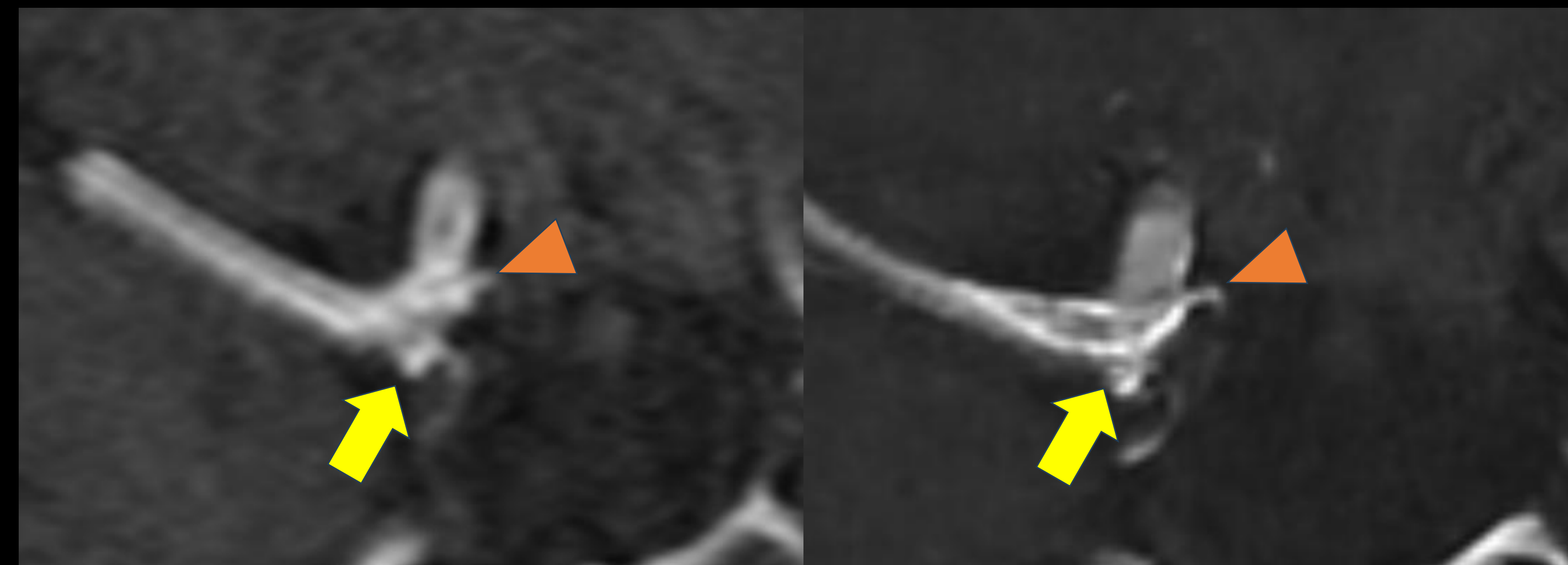


Case 2

Routineでは内側に突出する漏斗状拡張が疑われるが、HRでは**先の動脈まで描出**されている。

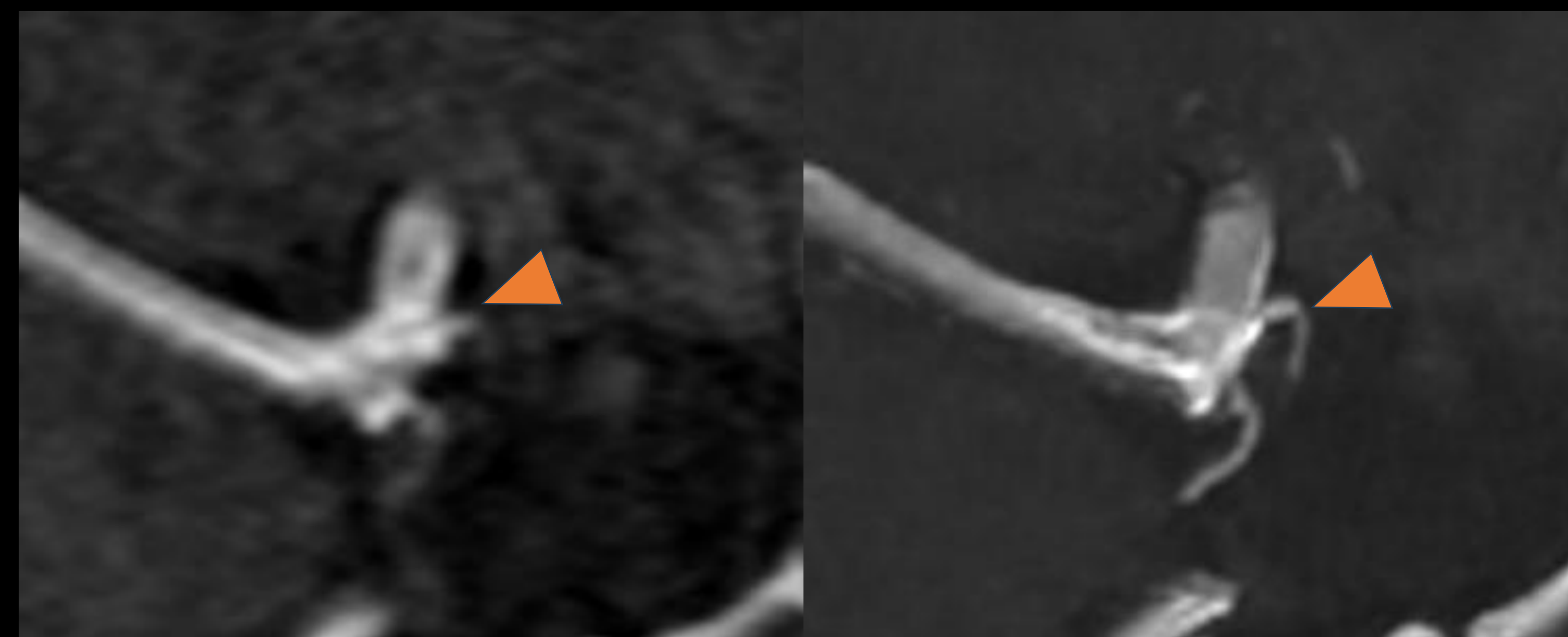
Routine

HR



Routine : Slab_MIP

HR : Slab_MIP



Case 3

Routine、HRでIC-Anchoroに動脈瘤が見られる（**黄色矢印**）
Routineで動脈瘤が疑われる（**オレンジ三角**）部分はHRのSlab MIPで確認すると正常血管として確認され、**動脈瘤が否定された**。

	Routine	High Resolution(HR)
Voxel size (Freq × Phase × Slice thickness)	0.5 × 0.9 × 0.8	0.4 × 0.4 × 0.4
Scan time	3:30	5:21